

2022 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 震災がつなぐ全国ネットワーク

共同代表 栗田暢之 松田曜子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ポストコロナ時代の「被災者支援」の在り方について考える基盤づくり事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神・淡路大震災の被災者支援を契機に、1997年11月設立。「生の声に耳を傾け、一人ひとりに寄り添う」という想いに共鳴する災害支援・防災に関わるNPO・ボランティア団体が集まり、全国域のゆるやかなネットワークを作っている。現在団体会員41、個人会員36。会員同士のつながりを大切にしながら、これまで50を越える災害の被災地支援に携わっている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

・プロジェクトの目的

最前線で被災者支援に関わってきた本ネットワーク会員および関係者で、「被災者支援」とは何かを改めて問い直し、議論する機会を設けることで、今後の災害ボランティアの基盤強化につなげる。

・背景

被災地では自ら助けを求めることが難しい方や法制度からこぼれ落ちる方々の存在はいまだ後を絶たず、さらにコロナ禍の継続により、脆弱者層も増え、より多くのボランティアが被災地に足を運ぶ必要性を感じている。被災者自身の回復力を信じ、自らの意志と選択によって、安心して生活再建への歩を進めていくための下支えができる災害ボランティアを、地域社会に増やしていくことを目指す必要があるため。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

① 検討会の実施(2023年6月12日~13日に開催)

この取り組みに賛同する、本ネットワーク会員および関係者10名程度と共に、それぞれが現場で考え、実践してきた「被災者支援」と現状の課題について掘り下げる。また、課題に対しては、「できたこと、できていないこと」を整理し、その時々ボランティアマインドを表すキーワードを抽出しながら、「震つな5箇条」と照らし合わせ、次世代に何を引き継ぐべきかを考える検討会を開催する。キーワードはテーマ別に分類し、具現化できるよう努める。

② ①実施のための準備会の開催(2023年5月15日・6月2日に開催)

③ ①を経ての振り返りの実施(2023年6月29日・7月14日に開催)

より多くの震つな加盟団体からも被災者支援に関わる現状の課題や、次世代に引き継ぐべきボランティアマインドを表すキーワードを抽出するためのアンケートの作成(別紙資料参照)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

事業実施の結果、「次世代に残すべき災害ボランティアの文化」をテーマとして、2010年に制作した『災害ボランティア文化編』の執筆者を検討会メンバーに招集することができた。これにより、被災者支援の在り方における13年後の想いや課題感の変化を比較し、さらに次世代に引き継ぐべきマインドの基礎となる「一人ひとりの声を大事にする」「被災者の目線で課題を捉える」「被災者の想いを代弁する」等のキーワード抽出に成功した。今後この取り組みを震つな全会員およびネットワーク団体等に拡大することで、幅広い層とのマインドの共有や、課題の深堀、解決策の探求への試みが促進され、よりよい被災者支援を目指し、行動できる担い手づくりに役立つ効果が期待できる。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

当初検討会2回と、シンポジウム1回の開催を予定していたが、検討委員から「準備やまとめ作業にもっと時間をかけるべき」という意見が上がった。また今回の検討会でキーワードや課題感の比較・抽出はできたものの、聴取対象者が限定されていたことや、可視化するための十分な整理には至らなかったため、プロジェクト内容を一部変更した。

今後は自主事業として、会員やネットワーク関係者に今回作成したアンケートやヒアリングを行い、さらなるキーワードと課題の抽出を行う。そして、来年度以降もよりよい被災者支援の在り方について深く議論する場を増やしていくための足掛かりとしたい。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

(提出物)

- ① 検討会議事録(その1)
- ② 検討会議事録(その2)
- ③ アンケートフォーム
- ④ 2010年制作「災害ボランティア文化編」冊子データ